



プレマ社長 飯野 晃子氏

有機農業で世界挑む

赤城山麓の自然の中で小松菜を有機栽培しているプレマ(前橋市粕川町下東田面)。自然と調和した「リアルオーガニック」を掲げ、青果だけでなく加工品の開発にも力を入れている。人口減少による国内市場縮小や人手不足が懸念される中、海外を視野に入れた経営で成長を目指す。質の高い有機農業に取り組み、世界を代表する企業へ。



自然環境と調和しながらより良い作物を生産することを「リアルオーガニック」と呼んでいる。化学合成農薬や化学肥料を使わず認証団体の審査をクリアすれば「オーガニック」とうたえるが、本質的なオーガニックは認証マークの有無の問題ではない。農業は自然に

優しい感じがするが、一般的には農業の営みそのものが環境に負荷をかけている。人間の都合で種をまき、栽培させてもらっているわけで、生産者のエゴになりかねない。環境と少しでも良い関係で作物を育てたい。

2015年に社長に就任してから土壌のケアを強化し、土の健康をベースとした高品質の小松菜生産に取り組んできた。選別作業後に残った小松菜もまだ活用する。食べられる外葉などは袋詰めし「もったいない菜」という名前で小売店や都内のジュースバーに卸す

ほか、残さを混ぜた自家堆肥の試作も重ねている。

「リアルオーガニック」への強い信念は大学院時代に目の当たりにしたインドの有機農業が原点にある。

有機農業はコストがかかり一部の裕福な人だけがで

きょうの紙面

- 中国国家主席、任期撤廃へ(2)
- 米国男、頭部遺棄認める供述(3)
- 北朝鮮「米と対話の用意」(4)
- 企業が「推しメン」コンテスト(18)
- 通訳案内、無資格でもOK(19)



加工品は農産物の特長をそのまま生かすことができる。価値を付けて販売できるため、天候に左右されやすい青果販売を売り上げ面でサポートすることにつながる。作り手である私たちが加工品を手掛けることは何よりの強み。原料のことを知り尽くしているし、生産者としての熱い思いを商品に込められる。健康や美容に対する社会の関心は高まっており、私たちの商品には追い風が吹いている。農場の知名度を高めるチャンスがある。

最近では青果を含めて海外に積極的に打って出てい

農業に高付加価値を



④ブレマ本社近くの小松菜畑

世界中から多くの人が訪れるような、誇れる農場にするのが目標だ。国内の消費者を対象に農業体験を実施しているが、直接見てもらうことが一番のPRになるし、農場のブランド化にもつながる。2020年の東京五輪・パラリンピックの際に、多くの外国人に足を運んでもらえるような農場にしたい。

(聞き手・和田亮介、撮影・大橋周平)

***かつて勤務していた食品会社で商品開発に携わった経験を生かし、パウダーやそうめん、うどんなど加工品開発にも力を入れている。**

昨年10月にシンガポールとマレーシアで試験販売した。フランス・パリでは既に加工品のそうめんが販売され、米国やヨーロッパでさらに販売網を広げていきたい。人口減少社会で国内市場の縮小が見込まれているが、確かな価値を持つものは国内外問わずこれからも支持されるはず。量ではなく質の価値だ。人口減を

***生産工程管理の国際規格「グローバルGAP(ギャップ)」の取得を目指している。来月に認証審査を控える。**

GAP認証を取ればそれ

恐れず、ファンに受け入れてもらえるような商品を提供し続けていく。



いいの・あきこ
栃木県足利市出身。大塚大学卒業、東京大学大学院修士課程了。2015年に創業者の父に代わり代表取締役に就任。自宅がある都内と前橋を行き来する生活を送る。38歳。

1面から続く

有機農業の研究で訪れたインドでは、かつての日本のように牛、馬など家畜の排せつ物で土づくりをしていた。農業も手作りだ。農場の周りで唐辛子や「ニーム」と呼ばれるハーブを育て、これを煮出して作物にスプレーする。お金が全くかかっていなかった。こうした真のオーガニックの価値を認め、世界に広げていくことは大事だと感じた。私たちの農場でもこの理想に近づけていきたい。

健康ブームが追い風に 確かな質の商品で勝負 ブランド化で海外に目

で良い訳ではない。GAP認証取得の一番の目的は、社内の生産管理体制を高めて品質を向上させることだ。取得よりも、取得のためのプロセスが大事だと思っている。勉強会を開いたり、専門家を呼んで指導してもらったりしながらこの1年間、みんなで力を合わせて準備を整えてきた。取得後もさらに工夫できる点はないか考えていくような社内意識変化を期待する。

***外国人技能実習生の受け入れなど、次代の人材育成においても国内だけでなく世界に目を向けている。**

昨年6月にベトナム人の女性2人を技能実習生として迎え入れた。彼女たちは本気で農業ビジネスをしたいと考えている。母国に戻り高付加価値の農業ビジネスで成功できるよう、日本の有機農業や高い品質レベルを学んでもらい送り出すのが私たちの役割だ。

国内でも、若い人を中心に職業として農業に関心が高まっていると聞く。私たちの農場でも若手が活躍している。小松菜は生育スピードが速く、結果が目に見えるやすい作物。経験のない初心者でも比較的取り組みやすいと思うし、興味がある人は積極的に採用していきたい。そのためには受け入れ側の人材育成力も高めなくてはならない。さまざまな産業で人手不足が指摘されているが、組織として高い人材育成力を身に付けられ国内だけでなく海外からも優秀な人材が集まってくるはずだ。